

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、運動のできるスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	児童発達管理責任者、児童指導員、保育士を配置。法律上の配置数は満たしている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物などを利用して保護者に伝えている。 ・ 情報伝達の際は特性に応じて絵カードやホワイトボードを用いるなど工夫している。 ・ 事業所内は全て段差がない構造になっている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日掃除を行っている。毎日の掃除以外でも気になったところはその都度行ったり、定期的に行っている。 ・ 窓の換気も定期的に行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	毎日のミーティングで話し合い、記録している。毎日朝礼時、終礼時に指導員全員でミーティングをして情報共有、振り返りを行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミーティングで改善出来るよう話し合いを行っている。保護者からの要望などは忘れぬよう、職員間で共有している。 ・ 保護者向けアンケートを実施し、評価の悪い項目については今後、計画的に改善を図っていく。また、顧客満足度調査を実施し、業務改善に繋げていきたいと考えている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	当社のホームページに公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価は実施していない。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	定期的に外部研修、内部研修を行っている。各職員の知識・技能向上に努めている。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。また、個別支援計画作成する際、話し合う時間を設けている。
11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	現在標準化されたアセスメントツールは存在しないため、今後作成し、運用していく予定。
12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	子ども一人一人のサービス計画に沿って、基本活動（自立支援・日常生活の充実のための活動等）を複数合わせて行っている。
13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	計画を作成する際も、すべての職員が参加しており、その支援についても意思統一を図っている。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている	児発管と指導員全員で話し合い、個別支援計画の目標や利用児童、保護者の要望に沿ってプログラムの立案を行っている。
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・研修やそれぞれのアイデアから意見を取り入れて、毎回ミーティングでメニューを決めている。 ・運動は子どもの様子や保護者のニーズを取り入れながら、日ごとにプログラムを変えている。創作は不定期だが、保護者からの要望や、季節に沿った創作活動を行っている。

適切な支援

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や児童の要望に沿って目標を作成し、適宜、個別メニューや集団活動を取り入れている。 ・小集団クラスを設けており、個別活動・集団活動を行っている。 ・契約時に適性を見極めクラス設定を行っている。子どもの成長に応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、子どもの意見を聞きながら行っている。年度替わりのクラス編成時にも、クラスの見極めを行い、保護者への説明も行っている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず打ち合わせの時間を確保し、振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	一言情報に記録している。サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録にも記入し、検証している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に面談やモニタリングを行い、職員全体に情報を共有したうえでミーティングを行い、計画の見直しを行っている。 ・定期的（7ヶ月ごと）に保護者の方と面談を行っている。それに合わせ、児発管、指導員でミーティングを行い計画の見直しの必要性を判断している。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	現在は相談支援事業所と電話でのやり取りを行っている。サービス担当者会議は行っていないため参加はしていないが、担当者から徴収があれば児発管が参加する予定。将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	直接の連携は行っていないが、保護者からの要望に応じる形で、情報の共有など連携できる体制は整えている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	医療的ケアが必要なお子様は通所されていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	医療的ケアが必要なお子様は通所されていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	今後必要に応じて検討していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	現在は行っていない。今後必要に応じて検討していきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	区市町村が運営する公開研修・療育セミナーに各自参加し、その中で積極的に情報収集を行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	今後必要に応じて検討していきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	現在は行っていない。今後必要に応じて検討していきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	フィードバック時や受け入れの際に毎回、お子様の様子を聞くようにしている。その後職員間で共有しミーティングで話し合っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、お子さまへの対応について保護者へのアドバイスを行なっている。また面談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明している。支援の内容も詳しく説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	定期的（7ヶ月ごと）に保護者の方と面談を行い、支援計画の説明と同意を頂いている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバック時や面談で保護者からお子様に関する相談を受けた場合は丁寧にヒアリングをし、職員間で情報を共有、当事業で出来ることを話し合っている。 ・児発管や指導員が悩みを聞き出すように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングし回答するように心がけている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	父母会は行っていないが、必要に応じて希望者には個別で情報交換などの連携を案内する対応を検討している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応するように心がけている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な時にお知らせやPOPを提示している ・会報は発行していないが、必要に応じてお知らせを掲示している。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報と思われる資料はシュレッダーを掛けている。利用児童の情報は、カギ付きキャビネットの中に保管している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	特性や能力に応じて絵カードやイラスト、写真を用いて対応している。口頭指示より視覚優位なお子さまに対しては、動作化を行い、目で見てわかるような伝え方をしている。今後必要に応じ検討していく予定。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在は行っていない。今後必要に応じ検討していく予定。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアルに沿って職員や保護者に周知し、定期的に訓練を実施している。今後も保護者に口頭や掲示などでしっかり伝えていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回以上地震避難訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練、風水害の避難訓練を指導員と利用児童参加の上実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用の契約の際に保護者の方にフェイスシートを記入いただいている。 ・いつでも確認できるよう個人ファイルに資料があり、児童名簿に情報をまとめている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	アレルギーについてフェイスシートに記入していただき、児童名簿にまとめてある。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ささいなことでもヒヤリハットを作成し、共有している。終礼時のミーティングで話し合い、その都度記録している。毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に研修を行い、何か気になることがあれば職員間で共有するようにしている。 ・管理者兼児発官が虐待防止の研修に参加し講師となり、講習したり虐待防止の資料を基に内部研修を行なっている。
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。当事業所において拘束等は行われていない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2022年度期

事業所名：TAKUMI 川口教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

		チェック項目	A	B	C	D	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	17				とても広々としていてありがたいです。	いつもご利用ありがとうございます。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	16	1			1人1人にしっかり教えてもらえています。	今後ともご期待に添えるような支援をまいります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	14	2		1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	16	1				
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	17					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	16	1				
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	17					
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	16	1				

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2022年度期

事業所名：TAKUMI 川口教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

保護者への説明等	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4		6	7		
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	17					
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	5	5	4	3		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	17				<ul style="list-style-type: none"> ・いつも先生方が親切、丁寧な対応をして下さるので、こちらもお伝えしやすく、とても良い環境だと思います。 ・毎回丁寧に説明して下さりありがとうございます。定期的に活動の様子を見学できるとありがたいですが、様々な事情で難しいとのこと、要望だけでも記入させていただきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見ありがとうございます。今後ともご期待に添えるように精進して参ります。 ・半年以内にご見学の機会を設けていますが、日々の活動につきましては、社内のiPadで撮った動画にて共有させていただければ幸いです。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	15	2				
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			14	3		
16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	17						

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

2022年度期

事業所名：TAKUMI 川口教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	3			支援中の様子を見られたらなおよい。	・ご意見ありがとうございます。半年以内にご見学の手続きを設けていますが、日々の活動につきましては、社内のiPadで撮った動画にて共有させていただければ幸いです。
	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	8	3	1	5		
	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	16			1		フィードバックの時に他の保護者に聞こえるのが気になります。個別のフィードバックをご希望の方は指導員にお声掛けください。
非常時等の対応	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	14	1	1	1	エレベーター前の待合スペースの窓に、子供が椅子にのぼって落ちてしまわないか少し心配です。	・ご意見ありがとうございます。窓の幅が開かないような留め具を設置し、子供が落ちないような工夫をして参ります。
	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	14	1	1	1		
満足度	子どもは通所を楽しみにしているか	14	3			終わると「いつも楽しかった！」と、とても満足そうです。	・ご意見ありがとうございます。今後とも楽しんでいけるようなプログラムを提供していきます。
	事業所の支援に満足しているか	17				・とても満足しています。あと半年よろしくお願ひします。 ・運動する機会がなかったり、自分では教えられないので、色々な運動を取り入れてくださり嬉しいです。	・ご意見ありがとうございます。今後とも満足していただけるよう支援して参ります。 ・今後とも様々な運動や種目などをいれたプログラムを目指し日々精進して参ります。

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令を順守したスペースは勿論のこと、運動のできるスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	児童発達管理責任者、児童指導員、保育士を配置。法律上の配置数は満たしている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	事業所内は全て段差がない構造になっている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	職員全員で毎日のミーティングで話し合い、振り返りと記録もしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	保護者向けアンケートを実施し、評価の悪い項目については今後、計画的に改善を図っていく。また、顧客満足度調査を実施し、業務改善に繋げていきたいと考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	ホームページに公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価は実施していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	運動や知識など様々な研修がある。定期的に外部研修、内部研修を行っている。各職員の知識・技能向上に努めている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	児発管と指導員が、子どもの様子と保護者の要望を確認しながら、個別支援計画を作成している。また、個別支援計画作成する際、話し合う時間を設けている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	現在標準化されたアセスメントツールは存在しないため、今後作成し、運用していく予定。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

適切な支援の提供	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	児童の支援目標を考慮し、ミーティング時に決めている。児発管と指導員全員で話し合い、個別支援計画の目標や利用児童、保護者の要望に沿ってプログラムの立案を行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回ミーティングでメニューを考えている。研修や職員それぞれのアイデアを取り入れている運動は、子どもの様子や保護者のニーズを取り入れながら、日ごとにプログラムを変えている。 ・ 創作は不定期だが、保護者からの要望や、季節に沿った創作活動を行っている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日や長期休暇等に運動や創作のイベント、強化週間等、特別プログラムを行っている。 ・ 当事業所は長期休校時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容・流れで実施している。長期休校期間にはイベントを実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 状況や子供に応じて個別で取り組むもの、集団でしか行えないものを取り入れている。 ・ 小集団クラスを設けており、個別活動、集団活動を行っている。契約時に適性を見極めクラス設定を行っている。子どもの成長に応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、子どもの意見を聞きながら行っている。年度替わりのクラス編成時にも、クラスの見極めを行い、保護者への説明も行なっている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	ミーティング時にリード・個別対応・フィードバックの担当を決めている。支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出し、ミーティングの中で支援方法や役割分担を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今日の様子、良い点、改善点を話し合い記録し、次回の活動に活かしている。 ・ 支援終了後に必ず打ち合わせの時間を確保し、振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点を洗い出している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	一言情報にまとめて、いつでも見返せるようにしている。サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録にも記入し、検証している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的（7ヶ月ごと）に保護者の方と面談を行っている。それに合わせ、児発管、指導員でミーティングを行い計画の見直しの必要性を判断している。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っている	総則通り行っている。
関係機 関や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそ の子どもに状況に精通した最もふさわしい者が参 画している	現在は相談支援事業所と電話でのやり取りを行っ ている。サービス担当者会議は行っていないため参 加はしていないが、担当者から徴収があれば児発 管が参加する予定。将来的には指導員の参加も 検討していきたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交 換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送 迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に 行っている	保護者との連携を取り、トラブルが起きないよ うにしている送迎がないため、保護者と毎回送 迎時に情報共有を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	医療的ケアが必要なお子様は通所されてい ない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こ ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有 と相互理解に努めている	現在は就学前の各園との情報共有等は行ってい ないが、放課後等デイサービスや保険対象外の療 育施設との情報共有や相互理解は要望があれば 対応している。今後、必要に応じ検討してい きたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所か ら障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、そ れまでの支援内容等の情報を提供する等している	現在、障害福祉サービス事業所に移行する児 童はいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セン ター等の専門機関と連携し、助言や研修を受け ている	区市町村が運営する公開研修・療育セミナー に各自参加し、その中で積極的に情報収集を行 っている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がい のない子どもと活動する機会がある	今後必要に応じて検討していきたい。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加して いる	現在は行っていない。今後必要に応じて検 討していきたい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の細かな成長を保護者と共有している。 ・毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて状況や課題を共通認識している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	ペアレントトレーニングは特に実施していないが、日々のフィードバックの中で、お子さまへの対応について保護者へのアドバイスをこなっている。また面談時に相談を受けた場合も、指導員が回答するなどして支援を行なっている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時に説明している。支援の内容も詳しく説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	児発管や指導員が悩みを聞き出すように声掛けし、助言や支援を行っている。一人の判断で回答できないときは、スタッフ間でミーティングし回答するように心がけている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	父母会は行っていないが、必要に応じて希望者には個別で情報交換などの連携を案内する対応を検討している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに職員全体に周知し、共有するようにしている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	ポップや手紙を作成したり、口頭で伝えている。会報は発行していないが、必要に応じてお知らせを掲示している。
	35	個人情報に十分注意している	個人情報と思われる資料は、シュレッダーを掛けている。利用児童の情報は、カギ付きキャビネットの中に保管している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	口頭指示より視覚優位なお子さまに対しては、動作化を行い、目で見えてわかるような伝え方をしている。今後必要に応じ検討していく予定。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在は行っていない。今後必要に応じ検討していく予定。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度期

事業所名 TAKUMI 川口教室

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアルに沿って職員に周知し、訓練にも取り組んでいる。今後も保護者に口頭や掲示などでしっかり伝えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	年2回以上地震避難訓練、火災避難訓練、不審者対応訓練、風水害の避難訓練を指導員と利用児童参加の上実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	管理者兼児発官が虐待防止の研修に参加し、講師となり、講習したり虐待防止の資料を基に内部研修を行ったりしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	組織的に決定しており、子どもや保護者へは契約時に必ず説明し、了承を得ている。当事業所において拘束等は行われていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	アレルギーについてはフェイスシートに記入していただき児童名簿にまとめてある。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ささいなことでもヒヤリハットを作成し、共有している。終礼時のミーティングで話し合い、その都度記録している。毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2022年度期

事業所名：TAKUMI 川口教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

		チェック項目	A	B	C	D	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	24	0	0	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	21	1	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・配置数は充分と思うが、専門性はよく分からない ・体育専門の方が退職されてしまうとの事で残念です 	ご意見ありがとうございます。体育専門職員の退職によりご心配をおかけして申し訳ありません。研修を重ねて専門性を高めていけるよう努力してまいります。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	12	3	1	8	意識したことがない	事業所内は全て段差のないつくりになっております。
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	24	0	0	0		
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	22	1	0	1		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	2	15	6		
保護者	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	24	0	0	0		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	23	1	0	0		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	22	2	0	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0	3	16	5		

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

2022年度期

事業所名：TAKUMI 川口教室

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

への説明等	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13	3	0	8		保護者の方からご意見をいただいた際には迅速に対応していきます。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	24	0	0	0		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	11	3	1	9		
	14	個人情報に十分注意しているか	22	1	0	1		
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	21	2	0	1		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	24	0	0	0		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	23	1	0	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	24	0	0	0	いつもありがとうございます。	今後ご満足いただけるよう支援してまいります。

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。